

入学を祝して



入学を祝して

歯学部長 前田 健康

平成26年度新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また保護者ならびにご家族の皆様の喜びもひとしおと拝察いたします。本日、新潟大学歯学部には多くの新入生を迎え入れることができましたことは、私ども教職員にとっても、この上もなく喜ばしいことでもあります。これからの学生生活の中、私どもとともに、日々進歩する歯科医学・医療、口腔保健福祉学を学び、来年、創立50年を迎える新潟大学歯学部のさらなる歴史を築いていきましょう。

歯学部では、歯学・口腔保健福祉学の分野に貢献する専門職業人の育成を教育目標としています。諸君がこれから学ぶ新潟大学歯学部では「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としています。君たちの選んだ職業には生涯にわたって、自ら学んでいくという態度が不可欠です。私ども新潟大学歯学部の教育スタッフは、学部教育を生涯学習の最初の時期と位置づけ、課題探求・問題解決能力の育成を重視し、その後続く学習を通して、専門性を主体的に向上させる人材を養成することを基本認識としています。本学部では課題探求・問題解決能力の育成の観点から、Problem-based learning (PBL) という学習方法を導入しています。このPBLでは教員は学習者の補助者にすぎず、「学習の主体は学生である」という概念で、学習が進んでいきます。この教育手法の主眼が「学生自身が自ら学ぶ」ということにあるのはいうまでもありません。また、歯科医療・口腔保健医療教育の集大成である臨床実習は、新潟大学医歯学総合病院を学びの場として、学生諸君が担当医の指導の下、診療参加・実践型の臨床教育を展開しています。このように新潟大学歯学部の教育の主役は、教員ではなくて、学生諸君です。

平成16年度の国立大学法人化により、全国国立大学歯学部同様、私ども新潟大学歯学部も厳しい競争的環境の中に置かれています。新潟大学歯学部はこの厳しい競争的環境の中、各種競争的資金

を獲得し、次世代を担う若手人材の育成に力を注いでいます。平成18年度の文部科学省事業「特色ある大学教育改革支援プログラム」、平成24年度の文部科学省事業「大学間連携共同教育推進事業」に採択され、全国歯科大学・歯学部のモデルケースとして高い評価を受けるとともに、歯学教育改善の先導的な役割を期待されています。また、大学院課程では平成17年度「魅力ある大学院教育イニシアチブ」、平成20年度には「大学院教育改革支援プログラム」に採択され、学士課程から大学院課程まで、高い教育の質を担保し続けています。また、平成21年度には「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に歯学部単独のプログラムとして、全国で唯一採択され、近年では学部学生の海外交流事業に平成23年度から4年間連続で採択され、グローバルに活躍できる人材の育成にも力を注いでいます。

厳しい国家財政の中、学生教育環境整備にも力を注ぎ、歯科治療をシミュレートする実習設備（ファントム実習設備）、学生診療用の歯科ユニットが更新・整備され、各種教材、教育機器の整備・充実にも努めています。また平成25年2月からは歯学部校舎大型改修工事が開始され、この秋からの第3期工事の終了とともに明年夏には17,500㎡の校舎改修が完了します。これらの高度かつ快適な教育環境を積極的に活用し、自己の目標達成のために、切磋琢磨し、たゆまない努力をお願いします。

勉強の話ばかり致しましたが、20代前後のこの時期、勉強ばかりだけでなく、クラブ活動、ボランティア活動などさまざまな社会経験をし、歯学部以外にも多くの友人を作り、教養のある社会人となるよう人間性を磨いてください。そして、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した学生生活を過ごし、卒業時に、平成26年度入学生および保護者の皆様全員でまた朱鷺メッセで喜びを分かち合いましょう。



入学を祝して

医歯学総合病院総括副院長
(歯科担当)

興 地 隆 史

全国各地から難関を突破して新潟大学歯学部の一員となられた歯学科・口腔生命福祉学科の新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。これからの学生生活が楽しく充実したものとなりますことを、心から祈念いたしております。

新潟大学医歯学総合病院歯科系診療部門は、新潟大学歯学部附属病院として開院以来、環日本海地域における歯科医療の拠点として高度・専門的な医療を提供するとともに、教育機関として多くの優れた医療者を世に送り出してまいりました。病院での実習は、机上の勉強だけでは決して習得できない「医療の実践」を学ぶ上で非常に重要なものですが、皆さんも早期臨床実習でその一端を肌で感じる事ができたのではないかと思います。さらに本院で行われる臨床実習は、言うまでもなく学生生活の締めくくりとして位置づけられますが、ここでも定評ある診療参加型の実習体系が整備されています。皆さんには、これらの充実した実習カリキュラムを通じて、医療のプロフェッショナルとして必要なさまざまな力を、意欲を持って培って頂けることを期待しています。

また、歯学部は言うまでもなく「国家試験受験資格が取得できる免許学部」であり、この意味では皆さんのゴールは極めて明確なものとなっています。ほとんどの皆さんは現在、五十嵐キャンパスでの教養科目の受講が学生生活の主体となっていると思いますが、今後は旭町キャンパスで専門科目が続々と開講され、医療従事者としての自らの将来像が日増しに具体的なものになることでしょう。また、医療系の学部である以上、医療を実践するための専門的知識や技能に加えて、医療従事者に求められるコミュニケーション能力なども習得することが皆さんの目標となります。本学歯学部のカリキュラムでは、これらを順次体系的かつ実践的に学ぶことが可能となるよう、ルールが敷かれた

形となっています。従って、皆さんの努力次第であることはもちろんですが、知識や技術を着実に吸収しながら前進していただければ、ゴール地点への到達は決して困難ではないでしょう。

その一方で、医療人としての皆さんの今後の長い道程の中では、学生時代は始発駅から次の停車駅までの僅かな時間であることも事実です。歯科医学・歯科医療はまさに日進月歩であり、我々にはこの職にある限り、膨大な情報を整理しながら、常に自分の知識をアップデートすることが求められます。現時点では教科書にも記載されていない事柄が、数年後には当たり前前の知識となることも決して珍しくありません。また、高度の歯科医療を実現させるための技術の習得、さらには患者様や医療スタッフとのコミュニケーション力、チーム医療をマネジメントする能力など、皆さんが今後身につけるべき事柄は、実際には一朝一夕には習得しがたいものばかりと言っても過言ではありません。医療のプロフェッショナルには、自ら学ぶ姿勢が常に必要とされます。授業内容を試験直前に詰め込み式に記憶することも時には避けられないでしょうが、皆さんには、疑問点を見だし、その解決につながる情報を収集・整理するといった能力を、日々の学習の積み重ねの中で是非とも養って頂きたいと思います。

最後に、学生生活が勉強だけの時間でないことは言うまでもありません。良い意味で余力を残しながら、部活、サークルなど学生時代ならではの活動に力を注ぐことも、皆さんの毎日の充実させるとともに、幅広い人間的魅力を身につける上で有意義と思います。さらに、大学時代は一生の友人との邂逅の場でもあります。かけがえのない仲間と切磋琢磨しながら、社会の期待に応えることができる高度職業人として巣立って行かれることを期待しています。